

第 50 回日本フィッショントラック研究会実施報告

福田 将眞

「合同研究会報告」

第 50 回日本フィッショントラック (FT) 研究会は、ESR 応用計測研究会・ルミネッセンス年代測定研究会との合同研究会として、2025 年 11 月 28 日 (金)、29 日 (土) に岡山理科大学 (C1 号館 3 階 C0131 教室) にて、同大学 古生物学・年代学研究センターとの共催のもと開催されました。世話人の豊田新先生をはじめ、産総研の伊藤一充さんや神戸大の谷篤史先生、岡山理科大の学生のみなさんの協力に支えられ、円滑に運営することができました。

研究会の講演は 25 件 (うち、1 件は取り下げ) の口頭発表がありました。FT 法や(U-Th)/He 法、ESR 法、OSL/TL 法、U-Pb 法などの年代測定法に基づく応用研究の発表を中心であり、そのほか各手法の基礎研究の発表がありました。地質体の分類や、火山・マグマ活動史、山地形成史、段丘堆積物、土砂移動、古気候復元、考古遺跡など、年代測定法の幅広い応用先が伺える多様な研究発表となりました。また、線量計測や年代測定における誤差論や補正法、新たな同位体分析法・年代測定法の実用化に向けた基礎研究など、今後の発展が期待される成果も見受けられました。数件は留学生等による英語での発表や議論が行われ、国際色豊かな雰囲気が感じられました。また、アジア地域での熱年代学の活発化を狙った Thermo Asia の紹介や、FT 研究会の現状と将来を総括した発表などもあり、研究会や年代測定法の発展性や将来性を考える契機となりました。初日の夜に開催された懇親会では、学内の 11 階のラウンジにて立食形式で行われ、参加者は久々の再会や料理を楽しみながら、煌びやかな市街の夜景を横目に和やかな交流の時間を過ごしました。

自由見学として、2018 年に新設された恐竜学博物館や、NHK の某有名番組風の「ぶら理大」のご案内がありました。キャンパス入口前の野外エスカレーターにも驚きましたが、中国山地の研究者の端くれである私にとっては、キャンパスの石垣に桜御影として知られる「万成石」が数多く使われていることが印象的でした。秋の肌寒さの中、恐竜時代から今も生き残る草木を眺めつつ、鮮やかな紅葉の絨毯の上を気ままに散策できました。オープンラボの分析室や、化石・骨格標本などの貴重な展示物、ゴビ砂漠での調査発掘風景、岡山理科大周辺の地形・地質を説明付きで見学することができました。また、昨年話題になった同一水槽で淡水魚と海水魚が共存できる「好適環境水」を悠々と泳ぐ魚たちを眺めつつ、これまで育成が難しかった魚種や山間部での海洋魚養殖など水産技術の進化を実感でき、近い将来には日本全土で新鮮な海の幸を楽しめる希望ある未来の一端を感じました。キャンパス内の散策を通じて、恐竜や古代植物たちが生きた遠く古の時代に思いを馳せつつ、現在進行中の科学技術の発展と、近い将来に訪れる明るい未来との対比を感じさせられるひと時でもありました。

「フィッショ・トラック研究会総会報告」

日本フィッショ・トラック (FT) 研究会総会は、2025 年 11 月 29 日 (土) 16:00～16:30 に開催され、以下の内容が話し合われた。

1. 会員の動向と出席数確認

新規会員として京都大の浅井勇人さん、金沢大の Ruby Marsden さんの 2 名が加入された。また、長野県教育委員会の猪又竜さんが退会された。普通会員 15 名の出席と委任状 16 名から、普通会員 (66 名) の 1/5 であることから総会成立を確認した。

2. 今年度の活動報告

ニュースレター (FTNL) 第 38 号についての原稿募集と刊行予定時期の周知や、第 50 回 FT 研究会の開催、Thermo2025 金沢大会が成功裡に終了したことが報告された。

3. 2024 年度の会計報告 & 会計監査報告 (監査・報告は会長の福田が代理)

昨年度の繰越金 559,983 円と利子 74 円の計 560,057 円が本年度の収入であり、FT 研究会 HP の運営に伴う Web ドメイン費 4,676 円が支出となった。したがって、総計 555,381 円が 2025 年度に繰り越しとなり、以上の会計報告・会計監査について承認された。

4. 2026 年度の執行部体制

翌年度の執行部体制は、概ね 2025 年度の体制を継続することになった。田上高広先生が務めていただいた国際担当は、Thermo2025 の閉幕により翌年度以降は廃止が承認された。昨年度議題に挙がった会計担当の廃止については、翌年度も執行部内で討議を進めていく。

5. FTNL の予定

既に受付済の原稿と投稿予定の原稿について確認があり、本年 12 月末～翌年 1 月頃に早期公開予定である。

6. Thermo2025 報告

田上先生・長谷部先生・末岡さんの連名で Thermo2025 金沢大会の報告が実施された。参加人数が 200 人超となり、ヨーロッパ以外の地域での開催では過去最大の参加者で盛会となった。開催までの準備や巡査の案内人、寄付などご協力いただいた皆様に感謝申し上げる。

7. JpGU-AGU joint meeting について

2026 年度の JpGU は AGU との joint meeting となり、年代・同位体セッションおよび表層変動年代セッションを統合した新たなセッションが採択された (Geochronology, Cosmochronology, Thermochronology and Isotope Geology)。

8. 次年度の活動計画

- ・ FTNL 第 38 号の追加原稿および第 39 号の原稿募集（長田充弘先生より）
- ・ 次回の合同研究会の開催については、ルミネッセンス研究会の意見を優先して進めるることを確認した。懇親会では、電中研、立正大学などの案が出され、世話人の打診を進めていただくことになった。時期については進展があり次第、研究会のメーリスで情報共有する。次々回は FT 研究会の持ち回りとなり、富山大での開催を検討中である。

総会出席者（14名：敬称略、五十音順）

浅井勇人、旭祐輔、伊藤一充、伊藤久敏、梶田侑弥、末岡茂、竹内圭史、田村明弘、谷篤史、長田充弘、福田将眞、三浦知督、南沙樹、Ruby Marsden

委任状提出者（15名：敬称略、五十音順、賛助会員を除く）

安間了、郁芳隨徹、岩野英樹、及川輝樹、鴈澤好博、島田耕史、新正裕尚、田上高広、檀原徹、檀原有吾、中里裕臣、中嶋徹、長谷部徳子、藤原寛、山崎誠子